

## 2023年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

### 1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	かとう やすし	職 位	教授	学 位	修士（商学）
教員氏名	加藤 康				
アルファベット表記	Yasushi Kato				
専門分野		産業論・企業論			
研究課題	テーマ	サプライチェーンにおける倉庫の機能			
	概要	サプライチェーン、ロジスティクスに組み込まれた倉庫の意義、機能に関する実証的研究			
本年度 研究業績	研究費	総額： 670,000 円 内訳：個人研究費 220,000 円 / 科学研究費 450,000 円 そ の 他			
	研究テーマ	サプライチェーンにおける倉庫の機能			
	経過と到達点	今年度は、サプライチェーンに関する文献の書評執筆、タイミングコントロール研究と自身の倉庫研究との整理等を行い、海外調査（3月予定）を含めて研究を一步前進させることができた。			

#### （1）学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					

⑤ 紀要論文	倉庫とタイミング コントローラー	2024年3 月発行予 定	単著	『同志社商学』第 75巻第6号	本稿では、私がこれまで行って きたサプライチェーンにおけ る倉庫の機能に関する研究を 整理し、タイミングコントロ ーラー研究の中でのその位置 付けを検討した。鋼材サプラ イチェーンの事例を中心とし て、その論理的捨象によっ て提示されたタイミングコン トローラー試論は、広くロジ スティクス研究への視角を 提示していると考ええる。
⑥ 紀要研究 ノート等	書評：李端雪編『業 界別物流管理と SCMの実践』ミ ネルヴァ書房、2022 年5月	2024年3 月発行予 定	単著	『イノベーション・ マネジメント』 21巻、法政大学イ ノベーション・マ ネジメント研究セン ター	本書は、李端雪氏と安藤康行氏 を編者として、一部研究者も 含みながら実務家を中心に執 筆されており、複数の業界別 の具体的取り組み、さらには 垂直的に視野を拡大し、輸 送、3PL、現場の問題等 を含む非常に包括的な内容 になっている。私は「タイ ミング・コントローラー研 究」の立場から書評を行っ た。
7 学会での 口頭発表、討 論者(ディス カッサント	サプライチェーン の動向	2024年3 月6日 (予定)	単	京都経済短期大学 経営情報学会	倉庫研究、タイミングコント ローラー研究の立場から サプライチェーンの最近の 動向について検討を試みる。

## (2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書				
⑨単著書・ 単訳書				

## (3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)	タイミングコントローラーと競争優位:規模の経済とJIT生産の両立に関する研究(中道一心)	2020年4月~2025年3月	文科省科研費基盤研究(C)	サプライチェーン全体の最適化に不可欠な企業(タイミング・コントローラー)の検討、国際比較、その理論構築を目指す。
⑬科学研究助成事業(日本学術振興会)申請				

## 2. 教育(本年度のみ)

担当科目		前期	後期
		科目名	科目名
担当科目	講義	経営学総論、中小企業論、	企業論、流通論、経営英書購読I
	演習	基礎ゼミナールI、ゼミナールII、経営講読II	ゼミナールIII
	実習		

教育内容・方法 の工夫	<p>◆ 講義科目</p> <p>1 回生前期配当「経営学総論」では、経営学の基礎知識を解説すると共に企業の実際に触れることを意識した。「企業論」では、日経新聞の記事紹介を通じて経営分野における多様な事象に関心を持たせること、経営分野の基礎的理解とともに、サプライチェーンに関連する論理と多様な実際のありようを紹介することに重点をおいた。本科目と「中小企業論」「流通論」では、前年度同様 CEAS のアンケート機能を用いて毎回受講生にコメントの提出を求め、次の講義でコメント紹介を含めたフィードバックを行った。特に流通論では自身の日常的な購買経験等を画像付きで交える等、学生が身近に感じられる話題を中心にして展開した。2 回生前期配当「経営購読 2」においては毎回テーマを提示し、経営学分野の基礎的なトピックに関する小論文作成の個別指導を行った。1 回生後期配当「経営英書購読 1」では約 30 名の受講生と共に、コトラ、ポーター、アベグレン各氏による著名な文献を適時文法の確認等を交えながら購読した。</p>
	<p>◆ 演習科目</p> <p>2022 年度生は、前年度に引き続きゼミ合宿（京都府船井郡京丹波町）を行うことができた。さらに、今年度も 5 つのグループに分かれて企業へのヒアリング調査を行った。それぞれ前年度 2 月からの調査先をみると、A 班：プラビダ（4/3）、株式会社進々堂（9/12）、B 班：京豆腐ふじの本店（2/21）有限会社久在屋（9/5）、C 班：小倉山荘（4/22）京都米菓工業共同組合（9/7）、D 班：京都祇園萩月（9/14）、E 班：しま村（2/22）、株式会社本田味噌本店（9/11）と多岐に渡る。今年度もこうした調査をふまえて卒業研究（共通テーマ：サプライチェーンを考える）に取り組み、ゼミナール研究発表会前日にゼミ内研究発表会（YouTube で限定公開）を行った。ゼミ内 5 班の成果を今年度もゼミ論集として製本する。</p>
	<p>実習科目</p>
	<p>◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）</p>

## (1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	ゼミ合宿（於京都府船井郡京丹波町：2023 年 9 月 19 日～9 月 20 日）

## 3. 社会・学会活動（本年度のみ）

## （1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

## （2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

## （3）講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者	

## 4. 特記事項（本年度のみ）

--